

## 各小中学校の学校経営から見える “おおだて型学力向上を目指した取組”

大館市内各小中学校では、今年度経営全般において「ふるさとキャリア教育」の推進を根幹に据え、「おおだて型学力」の向上を目指して実践を重ねてきました。それは大館の未来を切り拓くための「人間的基礎力」「大館市民基礎力」「大館市民実践力」を育てることであり、日々の授業では「主体的に学ぶ授業」「思考力、判断力、表現力等を磨く授業」「集団で学び合う授業」を鍛えていくことを目標としています。

各校では自校の児童生徒の実態を把握し、「これからどんな子どもたちにしたいのか」全職員での共通認識を深め、それぞれ取り組んできました。

### < 小学校の取組 >

#### 1 日々の授業から・・・「アクション」「シンキング」「チームワーク」

(1)



比較検討を意識した学び合いの場面  
ユニバーサルデザインの視点を取り入れ  
個人差に対応しやすい3人グループで  
(情報把握力 協働力 表現力)

(2)



自由な意見交流を通して考えを深め、  
自信をもって発表に向かっていきます  
(課題解決力 協働力 発進力)

(3) 児童の発想を生かした「総合的な学習の時間」の取組から  
○身に迫った切実感のある課題の設定 → 「探究的な学習」へ



何とかしたい…

気になる…

解決したい…

だって でも たしかに  
たとえば なるほど…



調べたことを分類し、話し合いから自分たちの「課題」をみつめます  
(課題発見力 協働力)

## 2 諸活動から・・・

### (1) 人間的基礎力の育成



「挨拶フィールドワーク」：挨拶を交わす心地よさが実感できます（ぬいぐるみ人形でグータッチ）笑顔の花が咲き、お互いを知るよい機会です（基本的な生活習慣・社会性・思いやり）



小・中学生が学区の保育園を訪れ、食後の歯みがきの大切さを呼びかけました（基本的な生活習慣・健康・思いやり）

### (2) 大館市民基礎力の育成

#### ①「チャレンジ活動」…子どもたちの「課題対応能力」を高める取組

- ・すべて児童が企画し、課題を乗り越えながらゴールを目指す

「何のために、どんな力をつけるためなのか」意識させる



全体のふり返りは当日のうちに実施（高学年合同、ワークショップ形式で）

\* クリーンナップ活動、チャレンジフラワーストリートプロジェクト、よさこいソーラン等



子どもたちが大人に頼らず自分たちで考え、行動している姿はとても頼もしかったです。一生懸命プランターを運んで、何往復も歩く子どもたち一人一人のがんばりにうれしい気持ちになりました



地域の方々

\* 職員は人間関係を含め児童の実態把握に努める。また活動に埋没せず「指導」を適切に行うことを心がける。



6年児童

1年間のチャレンジ活動で僕たちについた力は2つあります。それは僕たち6年生の「指示の出し方」です。初めから上手くいったのではなく、4回のチャレンジ活動を行うごとに上達していったと思います。これは大きな成果だと思います。もう1つは「協力する力」です。これからの課題は、協力してくださる方とのコミュニケーションをもっと図ることです。

## < 中学校の取組 >

### 1 日々の授業から・・・

#### (1) アクション【主体的に学ぶ授業】

◇課題解決の見通しをもたせる工夫



見通しをもつことで安心して学習に取り組めます。終末の時間を確保し、習熟を図る学習過程になっていますね。教師の授業構想にも役立ちます。

#### (2) シンキング【思・判・表を磨く授業】

◇既習事項から判断し思考を促す支援



生活場面から問題を発見し、生徒自ら課題をつくり、既習事項を基に自力解決に取り組む3年生

#### (3) チームワーク【集団で学び合う授業】

Q. 普段の授業で学級の友達と話し合う活動をよく行っている（県学習状況調査）

あてはまる      どちらかと言えばあてはまる

1年	県	54.7	37.5	6.5
	市	63	32.3	3.7
2年	県	54.8	39.2	5.3
	市	60.3	35.3	4.1

ハンドサインや話型を用いて意見を出し合う学習活動はよく行われているが、他者との関わりの中で、ねらいに迫るために、深めたり高めたりするための

**思考を促す発問**  
教師のコーディネート が課題



◇生徒相互の授業参観

こんな取組も

◇授業マイスターの授業参観で研修



下級生が上級生の学び合う姿を見ることで、目指す姿を生徒自身がイメージ化



優れた授業をもとに、指名順、教師の切り返し発問、言葉かけなどについて校内研修を実施

## 2 諸活動から・・・

各校とも、育てたい「おおだて型学力」を明確にして諸活動に取り組んでいます

### (1) 集会活動



「一歩踏み出して表現しようとする意欲」や、「表現力」、「情報把握力・発信力・課題解決力」【大館市民基礎力】の育成をはじめ、「他学年のよさや多様な考えを学ぶ場」、「思考し考えを高める場」【集団で学び合う】など、各校それぞれのねらいを設定していますが、生徒の成長に伴い、各校の目指すところを超えた姿へと、1年の内に「シンカ」しています。

情報端末機器を使う際のマナーや約束等をテーマとした集会も、大半の中学校で行われています。

### (2) 地域との協働活動



【地域の方の声】  
大人も当日大勢参加してくれ、子どもも大人、大人同士もつながりができとてもよいことです。生徒たちは、地域の未来のことをよく考えています。



地域に何ができるか生徒自らが考えた活動が行われています。また地域住民と直接話し合いながら活動を計画するなど、地域に必要とされた活動が増えています。

これらの活動を通して、自己有用感を育みつつ、社会貢献の意欲や社会的使命感など【大館市民実践力】へと「シンカ」しています。

### (3) 部活動

礼儀作法等の習得、責任感の涵養、好ましい人間関係の形成、失敗や挫折かの挑戦など、【人間的基礎力】の育成を明示している学校もあります

## ・・・・ 未来大館市民の育成を期して・・・・

#### ○小中連携で目指す「おおだて型学力」の育成を

学校保健委員会を保・小・中合同で実施するなど、健康面での人間的基礎力育成を目指している中学校区も少なくありません。各校で実施しているふるさとキャリア教育を「9年間の活動計画」として系統付け、さらに「身に付けさせたいおおだて型学力」を小中で系統的に明確化することで、一層のおおだて型学力の育成が図られるものと考えます。

#### ○おおだて型学力の評価

各校では、身に付けたい「おおだて型学力」を学校評価に位置付けたり、関連する全国学力学習状況調査質問紙や県学習状況調査の項目を活用して評価していることが伺われます。今後さらに身に付けたい力の達成度を図るアンケートの設問内容や長期的な視野での評価の在り方をさらに研究し、PDCAサイクルでおおだて型学力の育成を図っていくことが肝要です。